

修士論文概要

サブサハラ・アフリカにおける経済開発とH I V / A I D S 対策の一考察 —ジンバブウェ共和国を例に—

岡崎 浩導

研究の目的と方法

本論文では、サブサハラ・アフリカにおける経済開発とH I V / A I D S 対策の現状を論じ、ジンバブウェ共和国という1つの国民国家を例に取り上げ、同地域におけるH I V / A I D S 対策の課題を整理するとともに、これまで行われてきた対策に対して1つの提言を行うことを目的とする。

過去20年以上に渡り、H I V / A I D S 対策は、ジンバブウェ共和国だけでなく世界中で、多くの資金と人材が投入され実施されてきた。国連エイズ合同計画 (the Joint United Programme on HIV/AIDS : UNAIDS) が毎年発表するH I V / A I D S 最新情報 (AIDS EPIDEMIC UPDATE) の2007年度版によれば、局地的にいくつかの国々においてその状況は改善されつつあるが、しかし、全体的に見て、その感染率は横ばいであり、その中でも人口が増え続けていると同時にH I V に感染した人々の寿命が伸びていることを考慮すれば、実質はH I V 感染者の総数は増えていることになる。そこでは、世界中に約3,320万人のH I V 感染者が存在し、その中でも総数の約68%を占めるのがサブサハラ・アフリカである。この地域の抱える課題はH I V / A I D S だけではない。安定しない政治、不公平が拡大する経済、新しい価値観と伝統的な価値観とがせめぎ合う混乱する文化は、そこに生活する人びとにさまざまな影響を与え続けている。

サブサハラ・アフリカ地域においては、その低開発が健康であることに対して人びとを脆弱にし、そしてそのことがH I V の感染拡大を招いた1つの原因であると同時に、重要なのが、逆にH I V の感染拡大が人びとそして社会を脆弱にし、同時に、それが低開発を導く1つの原因であるという悪循環が存在するということである。そこではH I V / A I D S 対策という医学のなかでの疫学的な1つの感染症対策として捉えるのではなく、この同地域の抱える開発問題を含んだ上での包括的な対策が必要になってくることに疑いはない。

この論文では研究方法として、文献調査並びにジンバブウェ共和国ハラレ市での実際のフィールドワークで得た情報を基に構成されている。

論文構成

目次

略語表

はじめに

第1章 グローバル化する世界のH I V / A I D S状況と対策

- 1節 感染症としてのH I V / A I D S
- 2節 包括的なH I V / A I D S対策の必要性
- 3節 グローバル化とH I V / A I D Sの関わり

第2章 H I V / A I D Sに対する国際社会の取り組み

- 1節 国際機関の取り組み ー国連エイズ合同計画ー
- 2節 政府開発援助による取り組み ー大統領エイズ緊急救援計画ー
- 3節 民間団体の取り組み ー世界エイズ・結核・マラリア対策基金とオックスファムー

第3章 ジンバブウェ共和国における開発とH I V / A I D S

- 1節 ジンバブウェ共和国の概況と歴史
- 2節 経済開発のH I V / A I D Sに対する影響

第4章 ジンバブウェ共和国におけるH I V / A I D S対策の展開と課題

- 1節 H I V / A I D S対策の構造と取り組み
- 2節 文化・政治・社会的障害とH I V / A I D S対策
- 3節 H I V / A I D S対策の分析と今後の展望

第5章 サブサハラ・アフリカにおける社会の発展とH I V / A I D S対策

- 1節 アフリカ問題と新しい展開
- 2節 経済開発とH I V / A I D S対策の関係性
- 3節 今後のH I V / A I D S対策の取り組みとサブサハラ・アフリカの未来

むすび

参考文献

論文の概要

H I V / A I D Sという感染症が我々の社会に与えたインパクトは計り知れないものが

ある。特にサブサハラ・アフリカにおけるH I V / A I D S がもたらした影響はすさまじいものがある。この論文で取り上げる、ジンバブウェ共和国においては、同国が独立した1980年、平均寿命が55歳であったのに対し、2005年には、37.2歳まで下がってしまった。これには高い5歳未満の幼児死亡率が1つの原因となっているのであるが、その幼児の死因の60~70%がA I D S の発症であることを考えるとその感染拡大の恐ろしさが分かる。これは、ジンバブウェ共和国に限らず、程度の差はあるにしろ、サブサハラ・アフリカ、特に南部アフリカにおいて同様の傾向が見られるのである。そこでは、労働生産の減少に伴う社会経済発展に対しインパクトがあり、それに加え遺児の増加や平均寿命の低下など様々な社会問題を引き起こす。

実際、世界のH I V 感染者数の3分の2、死亡者数の4分の3がサブサハラ・アフリカに集中している。そして特に同地域の女性のH I V 感染率が他と比べ非常に高くなっている。

それではなぜ、このサブサハラ・アフリカがこの感染症の影響を1番受けてしまっているのであろうか？そこには、同地域の低開発の状況がその感染拡大の1つの原因となっていると考える。安定しない政治、不公平が拡大する経済、新しい価値観と伝統的な価値観とがせめぎ合う混乱する文化は、そこに生活する人びとにH I V / A I D S をはじめさまざまな影響を与え続けている。それと同時に、H I V 感染の拡大が、同地域の開発の妨げになっているという悪循環が存在することも忘れてはいけない。

そもそもA I D S (Acquired Immune Deficiency Syndrome:後天性免疫不全症候群)とはH I V (Human Immunodeficiency Virus:ヒト免疫不全ウイルス)の感染により、比較的長い潜伏期間を経た上で発症する免疫不全症候群で、そのH I V の感染経路は性感染、血液感染、母子感染の3つ存在する。

そして、このH I V / A I D S に立ち向かうための対策活動は、さまざまなアクターによって行われている。ここでは予防をはじめ、治療・遺児支援・感染者への支援・母子感染予防などいろいろな活動が行われている。

このH I V / A I D S の対策において重要なことは、その活動を包括的に行うことである。予防と治療、H I V / A I D S に対しての偏見や差別の緩和などの実際直接H I V / A I D S に関連する活動を包括的に行うことの重要性は、現在浸透しつつあるが、それと同時に国の経済開発を常に視野に入れ、それと相乗効果が出るような対策を計画することが必要であると考ええる。

昨今、サブサハラ・アフリカはH I V / A I D S の問題にさらされながらも、近年の資源価格の急騰により、世界の目がその豊富な資源(石油、鉱物資源など)に再び注目し始めている。その結果、資源開発目的での海外からの直接投資は急激に増加しており、そこでいかにこの状況が生み出すメリットをH I V / A I D S 対策に生かすかが、重要であると考ええる。

たとえば、現在サブサハラ・アフリカで投資を行っている企業には最近、高まりを見せ

るCSR活動の観点から、HIV/AIDS対策を含むさまざまな社会開発事業に対して、資金を提供している。このことは、リーマンショックのような世界を取り巻く経済状況に左右されるという危険は含むものの、これからのHIV/AIDS対策活動に積極的に生かされるべき点である。